

# 駒ヶ根市のチームオレンジの取組みについて

国は令和元年「認知症施策推進大綱」を策定、「共生」と「予防」を両輪とする施策を推進し、そのもとで令和7年までに全市町村でチームオレンジを整備するよう目標が設定されています。当市では、令和5年までに16行政区全てにおいてチームオレンジの構築を目指します。

駒ヶ根市介護保険事業計画  
(第7期：H30～R2)  
(第8期：R3～R5)

「地域共生社会」の実現を図っていくことを目指す

**H27～ おれんじネット事業**  
(認知症を正しく理解し、地域で支え合う活動を促進する駒ヶ根市の取組み)

- 認知症サポーター養成と活動支援
- おれんじカフェ（認知症カフェ）の充実
- 認知症サポート医との個別相談の実施
- 地域見守りネットワークの創設

**H29～ 生活支援体制整備事業**  
(超高齢社会を乗り越えるため、住民主体の介護予防・支え合いの体制を整える取組み)

- 支え合いの地域づくりを推進するために
- 全地区に生活支援コーディネーターの配置
  - 全地区に支え合い推進会議を設置
  - 「通いの場、サロン」を充実  
⇒ 「支え合いの拠点」の充実

生活支援コーディネーター  
支え合い推進会議

## それぞれの取組みの結果

- 認知症サポーターの増加  
→ 地域の理解者の増加  
→ サポーターによる個別支援も充実
- 通いの場、サロンの充実  
→ 認知症サポーターが担い手としても参加

通いの場やサロンの中に  
「認知症の人が一緒にいる」  
ことが普通になってきた

## R3～ 「チームオレンジ」

認知症の方やその家族の支援ニーズと、認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組み

- 集う場（拠点）づくり
- 個別支援（パートナー活動）
- 学習・啓発
- 相談をつなぐ など

自分・家族が、認知症になっても「仲間」としてともに活動できる場づくり

おれんじネット推進員  
(チームオレンジコーディネーター)  
【役割】 チームオレンジの整備、活動の推進

- 2025年：65歳以上の5人に1人が認知症
- 2045年：長野県では人口の4割が高齢者

## 「共生」の地域



「認知症になっても希望を持ち、生きがいのある暮らしを続けることができる地域」づくりを目指します。

### 登録されているチームの紹介です

**おれんじネットフレンズ**

認知症の方を含めた認知症サポーターや、認知症の人と家族の会会員を中心としたボランティアグループ

【活動内容】

- おれんじカフェ（認知症カフェ）
- パートナー活動（個別支援）
- 認知症啓発

世界アルツハイマー月間  
ふれあい広場・RUN伴  
● 例会、学習会の開催

**中沢区（亀群）**

宅幼老所を拠点として、暮らしの延長線上にあるような居場所を目指して活動しているグループ

【活動内容】

- 介護予防や生活支援
- 介護や生活の相談
- 農産物加工など
- おれんじカフェ（認知症カフェ）

**町四区（ほのぼのやまびこ）**

フラワーアレンジメントグループの有志等が声を掛け合い立ち上げ、やまびこ荘を拠点に介護予防教室などを行っているグループ

【活動内容】

- 介護予防教室
- 交流会
- 健康学習会

**北割一区（ひなたぼっこ）**

通いの場の運営に関わっている認知症サポーターが中心となって立ち上げたグループ

【活動内容】

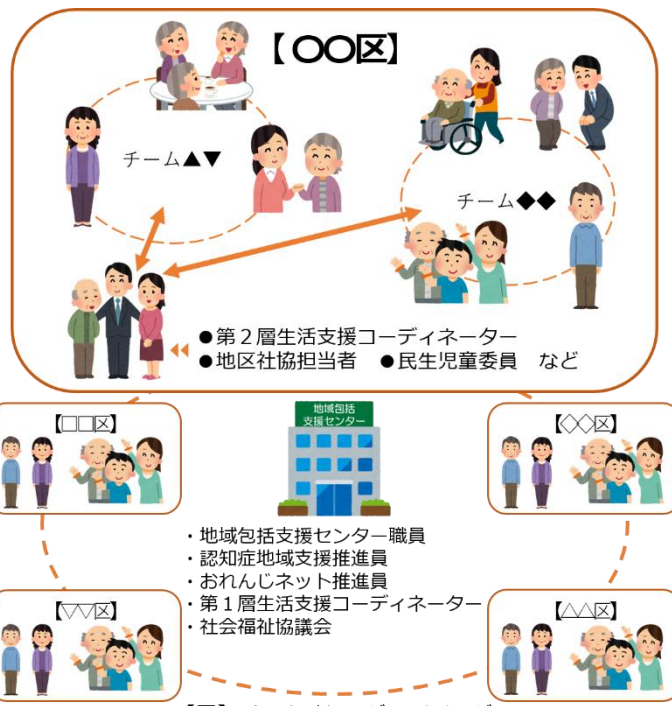
- おれんじカフェ（認知症カフェ）

毎月第1火曜日  
10時～11時30分  
長寿荘で活動中

### チームオレンジの立ち上げにあたって

- ① 登録方法  
認知症サポーター養成講座を受講することに加え、チームオレンジ学習会を通してチーム活動の意義について共有したグループを、地域包括支援センターにチーム登録します。
- ② チーム員の構成  
認知症の人本人・家族、認知症サポーター、地域の協力者、…誰もがチーム員になることができます。特に、認知症の人本人・家族をチーム員に含めることが重要です。
- ③ チームの土台となる組織  
既存の支え合いのグループや、新たに立ち上げたグループが①を行い、認知症の視点を含めた支え合いについて考えていくことからスタートします。区や自治会、通いの場など、地域に合った形を作ります。生活支援コーディネーターや地区社協担当者、民生児童委員等と連携を図ります。

➡ チームオレンジにより、認知症の人本人や家族の生活を早期から支援します。



【問合せ先】 駒ヶ根市地域包括支援センター（駒ヶ根市役所 地域保健課内） TEL: 81-6695（直通）